

# 幸せに生き残る近代建築

## 「84歳」の生駒ビルヂング

(大阪市中央区)

車がひっきりなしに通る大阪の大通り、堺筋。ガラス張りの新しいオフィスビルが並ぶ中で、古風な風情の「生駒ビルヂング」(大阪市中央区平野町2)が踏ん張るように立っている。耐震化工事などで手を入れることで、84歳の今も現役。登録有形文化財として最近若者の見学者も絶えない人気ぶりだ。



科の画学生だったころ、何度かスケッチに訪れたのだという。

「当ても既に歴史的な雰囲気があつて、それがいまだに変わらない存在感を持っている。戦前の『大大阪』といわれた時代の生き証人でしょう」

ビルは空襲も免れ、阪神・淡路大震災でもびくともしなかつたが、2002年、大手術を受ける。

オフィスビルに生まれ変わった。年月を刻んだ外壁をくぐり1階のエントランスに入ると、明かりが照らすしゃれたカフェや大理石の階段に目を奪われる。特別に許可をもらって2階に上がると、扉や壁で区切られたモダンなオフィスが印象的だ。

若一さんはビルの再生をこう評価する。「外観は全て残っているのに、中はインテリジェントな空間という、その対比が面白い。現代という時代に合わせて生き残っている幸せな近代建築だと思います」

地上5階、地下1階のビルはもともと、生駒さんが現在社長を務める「生駒時計店」の本社だった。1930年完成。表面に線状の凹凸があるスクラッチタイプの使ったアルデコ様式の建物で、長く街のランドマークとして親しまれてきた。

「実は10階ぐらいのビルに建て替えようかなと思つたこともあるんですが、建築の専門家の意見を聞いて、頑張れるだけ頑張ろうと思ひました」(生駒さん)。



落ち着いたたたすまいに魅了された一人が、大阪出身の作家若一光司さん(64)だ。大阪市立工芸高校美術

更新、2階以上を改造してテナント



①大阪・堺筋に立つ古風な風情の「生駒ビルヂング」②建設当時の設計図などを前にする「生駒ビルヂング」オーナーの生駒伸夫さん=大阪市中央区

